

枚方市立図書館第3次グランドビジョンの全体総括

枚方市立図書館第3次グランドビジョンでは、中央図書館開館以降に現れてきた新たな課題や本市の財政状況を踏まえて、2つの市立図書館のあるべき姿（理念）と4つの運営基本方針を定め、市立図書館のあるべき姿の実現に向けた具体的な方向を示した。

運営基本方針 1「基礎的な図書館サービスを充実します」では、平成30年3月に改訂した枚方市立図書館蔵書計画及び蔵書等管理基準に基づき、市民ニーズを反映した蔵書と知の源泉となる学問体系を意識した知識・教養を高める蔵書のバランスを重視した蔵書構成を目指しながら、蔵書の選定から魅力ある書架の維持・向上、魅力の薄れた蔵書や破損した蔵書の書庫入れや除籍に至る一連の蔵書管理、各種成人向け事業等を実施する成人サービス、高齢者・障害者サービスの充実などに取り組みを行った。また、図書館という空間の魅力向上として、中央図書館を始め、分館において、自習ができるスペースを設置し、滞在しやすい環境整備、学習環境整備を行い、滞在型図書館に向けた取り組みを行った。これにより、取り組み全体として、基礎的な図書館サービスの充実が概ね果たすことができたと考えている。

運営基本方針 2「家庭生活や職業上の課題や地域課題の解決のための各種支援機能を強化します」では、読書相談や様々なレファレンス（問い合わせ相談）を窓口や電話で受け付け、市民の課題解決に向けた支援を行った。さらに、窓口で問い合わせの多い内容については、パスファインダー（調べ案内）を作成・配布や図書館ホームページでレファレンス事例を公開するなど、セルフレファレンス（利用者が自分で資料にたどりつける工夫）として、市民が日常生活の中で図書館をより有効に活用できるよう、市民の情報活用能力の育成を図るための様々な取り組みを行った。

成人向け講座（大人の学校など）の開催や、生涯学習市民センターと併設する分館では、センターと連携して読書活動推進のイベントの実施、さらに、センター主催の行事でも関連図書展示やイベントのテーマに合わせたリストを作成・配布するなど、市民の図書館活用の促進、日常的な課題を解決する際の図書館の活用方法などのPRも行った。

運営基本方針 3「教育的役割を重視した取り組みを推進します」では、本市では、子ども読書活動を市立図書館の特色の一つと位置付け、第3次枚方市子ども読書活動推進計画の策定、同計画に基づく子ども向けのさまざまな事業の実施や小中学生の読書環境の整備、調べ学習コンクールやビブリオバトルなどの学校との連携事業の実施、さらに、市内全中学校区（19校区）に、市立図書館から学校司書19人を配置し、学校図書館の環境整備、市立図書館から学校に団体貸出図書を搬送する学校巡回便の運行の開始など、学校教育での読書、調べ学習の支援を行った。また、子ども読書活動を支援する読み聞かせボランティアの育成など、子ども読書活動の推進に係る事業や環境整備を積極的に行った。平成28年4月には子どもに本を届ける基金を設立、毎年、基金を活用し、小学校45校に本を購入し学校図書館蔵書として届けるなど、学齢期の読書習慣を育てるための学校図書館支援を行った。しかしながら、乳幼児期からの読書習慣を育てるための取り組みについては、十分な実績を上げる

ことができなかつた。今後は、乳幼児の保護者対象の講座やプレママ・プレパパ対象の読み聞かせ講座等の開催などの検討が必要であると考える。

運営基本方針4「魅力的かつ効果的・効率的な運営体制を構築します」では、中央図書館を司令塔とした、中央図書館・分館・分室・自動車文庫の最適な役割を明確化した。生涯学習施設と図書館の複合施設、老朽化に伴って建替えを行った香里ヶ丘図書館へ指定管理者制度を導入し、生涯学習施設と図書館の一体的な運営を行った。この制度導入により、開館日数・開館時間の増加、民間が持つノウハウを生かした様々な事業提案によるサービス向上が図られた。また、生み出した資源（人材等）を活用して、市内全中学校区（19校区）に、公立図書館で司書経験のある学校司書を配置するとともに、中央図書館に学校図書館支援グループを新設し、学校図書館を拠点とする学齢期の児童・生徒や教員への読書支援・授業支援を行うことができた。

以上から、枚方市立図書館第3次グランドビジョンについては、全体としてその目的を達したと考えており、残る課題については第4次グランドビジョンに引き継ぐとともに、コロナ禍以後の新たな生活様式に対応した図書館サービスの展開、学校教育とのさらなる連携など、今まで以上に魅力ある図書館を作るための方向性を明確にしていきたい。